

ひまわり



令和4年6月20日(月)

譲る心



高校生の時にバイクの免許をとり、バイク通学をしていました。バイクで走ることが楽しくてたまりませんでした。好きが高じて、大学ではエンジンのことを勉強できるコースに進みました。

大学の授業で、先生がエンジンについて次のように説明されたのを覚えています。「エンジンは、毎日でも火を入れたらんと本調子にならん」

火を入れると、エンジンを始動することです。なぜかこのフレーズが心を鷺づかみにしました。だから大学の4年間、よほど天候が悪くない限り、エンジンに火を入れバイクで通学していました。

あれから40年以上経ちましたが、今でもバイクに乗っています。しかし、毎日は乗れません。週に1、2回エンジンに火を入れるのがせいぜいです。また、まとまった時間もとれないので、家の近くの山道を走ることが楽しみになっています。

バイクに乗っていて、とても怖く感じことがあります。片側一車線や一車線の田舎道を法定速度で走っていると、速く行けとばかりに後ろから迫ってくる車がいます。バイクにドライブレコーダーを付けているので、それに気づいた危険車両は、すっと後ろに下がっていきます。確信的にあおっているのです。高速道路であおられた時などは、生きた心地がしません。このような時、恐怖を感じるとともに、車のドライバーに腹も立つのですが、ワインカーを出して左に寄り、道を譲るようにしています。

それは一見、攻撃者のために自分が我慢をするように思えるかもしれません。しかし、自分を守り、大きな事故で人に迷惑をかけないためには、譲ることも大切なのです。もちろん執拗なあおりについては、ドラレコの証拠をもって警察に行くことが大切です。

このように、どんな場合でも「譲る心」をもって対応すれば、心に余裕が生まれます。このことは、車やバイクの運転についてだけではありません。道を歩いている時や、スーパーのレジに並んでいる時、教室の入り口で友達と鉢合わせになった時など、生活のさまざまな場面で「譲る心」が大切な場面があります。

「譲る心」を持つことは、社会生活を円滑に進めるために、とても必要なことではないでしょうか。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

